旭川別院だより

真宗大谷派旭川別院

旭川別院だより
秋号
2025
発行所　真宗大谷派 旭川別院
輪番　福田　大
〒070-0030 旭川市宮下２丁目
TEL.0166-22-2409
FAX.0166-22-2411
■印刷：植平印刷株式会社
■旭川別院ホームページ
旭川別院　検索

報恩のこころ
～人に遇う 言葉に遇う 自身に遇う～

木古内町 円照寺住職　仁禮 秀嗣

祖恩偲ばれる季節

祖恩偲ばれる季節を迎えました。旭川別院さんの報恩講が、十一月一日より五日までの四昼夜五日間、お勤まりになります。

真宗のお寺にご縁を結ばれたご門徒の方はもちろん、一人でも多くの方々にとって、祖恩に出遇い、仏恩に出遇い、そしてかけがえのない大切な自分自身に出遇うことのできる御仏事としてお迎えできることを、切に願うばかりです。

人生を決定づける一大事

然るに、愚禿釈の鸞、建仁辛の酉の暦、雑行を棄てて本願に帰す。
（『教行信証』化身土巻／聖典二版四七四頁）

この言葉は、親鸞聖人にとって、求めても求めても出遇い得なかった、遇い叵き真宗（まことのみむね）に、ようやく出遇うことのできた回心の表白です。

人の一生とは、その人の能力で決まるものではないと思います。大切なことは、思い通りにならない人生、悩みや苦しみ、寂しさや空しさいっぱいの人生の中に発ってくる、道を求める心（求道心）にこそ、仏さまの願い（本願）が、響き届くのだと思います。

いかなる人に出遇うのか
いかなる言葉に出遇うのか
人生を決定づける一大事である
（松本梶丸師）

私はこれまで、たくさんの人の姿や言葉にふれてきましたが、そのほとんどが、私をすり抜けていってしまいました。後になって、あの時のあの先生は、あの人は、大切な方だったと知らされた時には、その人はすでに亡くなっておられたということが、たくさんありました。

正直に申しますと、私は、親鸞聖人の教えを学びたくありません。面倒くさいし、難しいし、まして自分の生き方やあり方を問うことなど、劣等感いっぱいにコソコソと生きている私にとって、嫌で嫌でたまりません。人見知りの私にとって「ともに生きる」ということは、本当に煩わしくてなりません。

ああ、お寺なんか嗣がなきゃよかったなあ。そもそも、お寺になんか生まれなきゃよかったのになあ。そうだ。親鸞のことなんか、はじめから、単なる歴史上の偉い人だと思っているだけだったら、もっと楽な生き方ができたかもしれないなあ。…

という心で生活している私が、ここにいるのです。

ところが、そんな私の身のうちの、深い深いところから発ってくる心があることも、本当に不思議でなりません。その心とは、

こんな身勝手な私をたすけてください。どうかたすけてください。これまで私は、たくさんの人に願いをかけられ、育てられてきたんです。それなのに、自分のことで頭がいっぱいなんです。ご門徒の方からいただいた野菜やお米を食べて生きてきたんです。私が幼いころの報恩講には、身なりを整えられ、泊りがけでお参りに来られた方がたくさんおられ、その時の記憶が、私の中にいつまでも残って忘れられないんです。

という心であり、私にとっての「後生の一大事」（蓮如上人）を問いかけ続ける心です。

道としての宗祖

「宗祖としての親鸞聖人に遇う」という言葉があります。これは、真の宗を求める道を歩まれ、「よきひと」法然上人と出遇い、本願念仏の大道を歩む者として生き抜かれた親鸞聖人の生き方に出遇うという意味の言葉です。

私たちが心の深いところで本当に求めていることは、歴史上の人物である「親鸞」に出会うことでもなければ、単なる知識としてその教えを理解することでもないのではありませんか。この私の身に響き届く声、現に生きてはたらく願いとの出遇いを、私たちの誰もが、悩みながら、悶えながら、求めているのではないでしょうか。

親鸞聖人は、『教行信証』信巻に、次のような『涅槃経』の経文を引かれておられます。

復た二種有り。一には道有りと信ず、二には得者を信ず。是の人の信心、唯、道有りと信じて、都て得道の人有りて信ぜざらん。是れを名づけて「信不具足」とす
（『教行信証』信巻／聖典二版二六一頁）
（文意）
また二種ある。一つには道ありと信ずる、二つにはこの道を歩んだ者がいると信ずる。この人の信心は、ただ道があることだけを信じて、その道を歩んだ人がいることを信じない。これを「信不具足」という
（『解読教行信証』（上）二一〇頁・東本願寺出版）

「その道を歩んだ人」が、確かにおられるのです。「宗祖として遇う」ということは、親鸞という単なる歴史上の人物に会うということではありません。親鸞聖人が歩かれた道こそが、親鸞聖人です。そしてその道を、私たちの祖先も、また、悩みながら、叫びながら歩き続けられ、自らの命を終えていかれたのではないでしょうか。

そして、その道を、今度はこの私もまた、その跡を追いながら歩いていくということが、「宗祖としての親鸞聖人遇う」ということです。ただ道だけがあるのではない、その道を歩んだ人（得道の人）の姿や言葉こそ、私たちが、遇い叵き真宗に、はからずも出遇うことのできる機縁となるのでしょう。

道が導く恩徳 ～亡き父の呟き～

私の父が亡くなる三か月前、自坊の報恩講の御満座（結願）を終え、お参り下さったすべてのご門徒の方々が家路につかれた後のことです。父と私の二人だけが本堂に残り、本堂正面の玄関から参道を見つめながら佇んでいたとき、父がふと呟きました。

今年の報恩講も終わったなあ。
寂しいもんだなあ。

それを聴いた私は、すかさずこう返しました。

父さん、前住職だから、そういう余裕のある言葉が出るんじゃないかい？住職の俺としては、寂しいよりもホッとしたというのが、本音だよ。

と。

そのやりとりからちょうど三か月後に、父は亡くなりました。今となっては、「寂しい」と言った、父の呟きの理由は確かめられませんが、恐らく父は、七十四年という生涯を通じて、報恩講を勤め続けてきたからこそ出遇うことのできた人の姿や言葉、その時々の出来事や感動の一つ一つに、自身が育てられてきたことを回顧しながら、体調が思わしくないわが身のことも思いつつ、「来年の報恩講に遇えるだろうか…寂しいもんだなあ」と呟いたのではないかと、報恩講をお迎えする今、憶い出しておりました。

（次号へつづく）

法座・行事案内予定

10月
1日　午後7時　公開学習会　畠山　明光師
7日　午後1時　群萌の会　列座
8日　午後1時　マヤの会　列座
13日　午後1時　初心の集い　輪番・列座
16日　午後1時　同朋の会　列座
18日　午前10時　婦人会　列座
18日　午後1時30分　報恩講門徒協議会　列座
18日　午後7時　壮年の集い　列座
未定日　あゆみ会

11月
1日～5日　旭川別院報恩講
（1日 逮夜～3日 日中）
上磯郡 木古内町 円照寺　仁禮　秀嗣 氏
（3日 逮夜～5日 日中）
滋賀県 長浜市 満立寺　黒田　進 氏
8日　午後1時　マヤの会　列座
16日　午後1時　同朋の会　列座
18日　午後1時　婦人会（総会）　列座
27日　午後1時　群萌の会　列座
28日　午後1時　御正忌　山本　英丸 氏
午後3時30分　報恩講懇親会　列座
壮年の集い　列座
未定日　あゆみ会

12月
1日　午後7時　公開学習会　畠山　明光師
7日　午前11時　群萌の会　列座
8日　午前10時　マヤの会　列座
13日　午後1時　初心の集い　輪番・列座
16日　午前10時　同朋の会　列座
18日　午後1時　婦人会　列座
未定　午後7時　壮年の集い　列座
未定日　あゆみ会　列座

1月
1日　午前0時　修正会
16日　午後1時　同朋の会　列座
17日　午前11時　群萌の会
18日　午前10時　婦人会（ゲーム大会）　列座
未定日　あゆみ会　列座

まことのことば　私の上にあるものは、全部賜うたものである。（細川　巌）

輪番感話

「先生、死ぬのって怖いですか」
「何を言うとるか。お前はその前に生きとるのか？」
～訓覇 信雄～

就任からはや、四ヶ月を迎えようとしている。毎月、夫婦二人で仲良く（たまには喧嘩をしながら）旭川医大に通っている。私は一昨年の二月に前立腺癌の摘出手術の後、今年の五月に再発し、九月のひと月間は放射線医療を受診し、妻は潰瘍性大腸炎という病名を得たゆえである。

二年前、夫婦共々の両親が亡くなり、自分自身の身体の気がかりな検査を受診するため、かかり付けの医師に相談したところ「癌の数値がまだそんなに高くないから、心配しないでいいですよ」と言われたが、自発的にCT検査をお願いし、受診したところ見事に前立腺癌が発見された。「癌は他人がなるものだ」と高を括っていた私だったので、「何故、俺が癌にならねばならないのか」という思いと、「癌の数値が高くないので、大丈夫ですよ」という医師を責めずにおれない思いが湧き起こってきた。癌が死の病であったのは昔の事かも知れないが、すぐさま思い浮かんだ言葉が「今までは 人のことだと 思ふたに 俺が死ぬとは こいつはたまらん」という、江戸時代の狂歌師、大田南畝の辞世の句であった。生は偶然、死は必然であるにもかかわらず、生は必然、死は偶然に生きている私の生き様が露呈した。

また、蓮如聖人は御文四帖目十三通で『法然聖人の御詞（おんことば）にいわく「浄土をねがう行人（ぎょうにん）は、病患（びょうげん）をえて、ひとえにこれをたのしむ」（伝通記糅鈔）＝（でんつうきにゅうしょう）とこそおおせられたり。しかれども、あながちに病患をよろこぶこころ、さらにもってなし、おこらず。あさましき身なり。はずべし、かなしむべきものか。』と述懐されている。確かに、病患（びょうげん）をえて、たのしむことは到底出来ないことである。しかしながら、食べた物、飲んだ物を美味しかった、不味かったと思っているのは私の思いであり、その私の思いを超えて体自体は、美味しい、不味いを超えてすべて受入れ、血となって、肉になって、骨になって体自身を支え、生かしていることは、私にとっては頷かずにはおれないことである。

また、「先生、死ぬのって怖いですか」「お前はその前に生きとるのか？」は、訓覇 信雄（くるべしんゆう）氏のお言葉である。老病死は常に私が必然としている生を脅かせているが、老病死によって生が問われ、「お前は、何によって生きているのか」、「生きるとはいかなることなのか」を私に問うてきているのではないかと、思わせられていることである。

癌と共に、死への恐怖を抱えて、夫婦共々に喧嘩をしながら旭川別院での任務に従事させて頂く所存です。何を、どこまで出来るか判りませんが、皆様方のご助言、ご支援、ご協力を賜わりながら、皆様方と当院の職員とが共々に歩みを進めさせて頂きます。当院の御門徒各位、崇敬寺院各位の皆様方におかれましては、ご高配を賜わりますよう何卒、宜しく御願い申し上げます。

真宗大谷派

旭川別院 報恩講

2025年
11月1日～5日

鍵役 宣心院殿御参修

- 結願逮夜／４日　14時～
- 結願日中／５日　10時～

大谷（おおたに）　暢文（のぶふみ）殿
東本願寺鍵役

報恩講講師

３日 逮夜／４日 晨朝・日中・結願逮夜
５日 結願晨朝・結願日中

黒田（くろだ）　進（すすむ）氏
（滋賀県 満立寺 前住職）

１日 逮夜／２日 晨朝・逮夜
３日 晨朝・日中

仁禮（にれい）　秀嗣（しゅうじ）氏
（木古内町 円照寺 住職）

報恩講日程（予定）

日 ／ 法要	1日	2日	3日	4日	5日	6日
	土	日	月	火	水	木
晨朝		7時（院内）（法話あり）	7時（院内）（法話あり）	7時（院内）（法話あり）	7時（法話あり）	7時（院内）（法話なし）
日中	幼稚園報恩講 10時30分		10時（院内）（法話あり）	10時（院内）（法話あり）	10時（法話あり）	
お斎			お弁当（日中参詣後）	お弁当（日中参詣後）	幌加内そば（日中参詣後）	
逮夜	14時（院内）（法話あり）	14時（院内）（法話あり）	13時半（院内）（法話あり）	14時 鍵役ご挨拶（法話あり）		
御伝鈔			15時15分			

※（院内）は別院の輪番・列座のみのお勤めです。

〇お斎券の配布はございません。　〇３日、４日の会食会場は大谷ホールです。
〇３日逮夜・４日結願逮夜・５日結願日中にご参詣の方には記念品を配布いたします。

謹啓　秋晴の候、ご門徒各位には益々ご清祥のことと存じ上げます。
さて、旭川別院宗祖聖人報恩講は、宣心院殿ご参修のもと、崇敬寺院、和暢会ご参勤にて、左記の通り厳修させて頂きます。
何卒、ご参詣下さいます様、お待ち申し上げます。
尚、三日日中参詣後・四日日中参詣後のお弁当、五日結願日中参詣後の幌加内そばを用意致しております。
多数のご参加をお待ちしております。

謹　和
さ　暢
　　何
　　尚
　　加
　　多
　　幌

合掌

旭川別院輪番　福田　大
旭川別院報恩講　実行委員長　塚本　信樹

法仏 あれこれ

ご門徒のQ&A

Q、親鸞聖人（しんらんしょうにん）は何時代の方なのでしょうか？

A、親鸞聖人のご誕生の年については、ご自身の著述の末尾に記された「その著述を書かれた年」と「その時の歳」から逆算して、西暦「一一七三年」であることが知られます。日本の時代で言うと「平安院政期」に当たります。今から八五〇年程前にこの日本の地に誕生されたのですね。そして、「一二六二年」に亡くなられたと伝えられており、数え年にして九十歳で命終されました。時代は源平合戦を経て鎌倉に移りますので、親鸞聖人は「平安から鎌倉」の時代に生きられたのです。

Q、「きみょうむりょう・・・」から始まるお経は何というお経なのでしょうか？

A、月参りやご法事などで「きみょうむりょうじゅにょらい」から始まるお勤めを耳にすることがありますね。これは親鸞聖人が作られた『正信念仏偈（しょうしんねんぶつげ）』という「偈」で、ある先生は「歌」と表現され、「浄土真宗の教えとその伝統が簡単明瞭にお述べなされてある」と言われます。つまり、「お経」そのものではなく、ご自身が出遇われた「お経の教え（お念仏の教え）」と、先達によりご自身にまで教えが伝えられてきたという「伝統」を明らかにされた歌なのです。

※お勤めの本を別院事務所で取り扱っています。お参りの際にご一緒にお勤めをしていただければと思います。

初鐘（はつがね）・修正会（しゅしょうえ）のご案内

●日　時　初　鐘　令和七年十二月三十一日（水）　午後十一時四十分開始
　　修正会（新年のお参り）　令和八年一月一日（木）　午前零時

●場　所　初　鐘…鐘楼堂　修正会…本堂

当日、初鐘の前に蕎麦振舞い（限定五十食）を予定しております。また、修正会では抽選会（景品あり）があります。詳細につきましては、別院までお問い合わせください。

※アレルギーをお持ちの方はお控えいただければと思います。

令和八年お年始参りについて

期　間　一月六日～三十一日まで

●ご自宅へのお参りの日時につきましては、令和七年十二月下旬頃にハガキでご連絡いたします。日時のご変更等は別院までご連絡をお願いいたします。

●一月中のご法事等につきましては、令和七年十二月十日までにご予約をお願いいたします。

●一月のお月参りはお休みさせていただきます。

御正忌のご案内

十一月二十八日は親鸞聖人の御正忌（ごしょうき）※お亡くなりになった日）です。蓮如上人（れんにょしょうにん）が御正忌に際して書かれたお手紙には「南無阿弥陀仏の六の字のこころをよくしりたるをもって、信心決定（しんじんけつじょう）すとはいうなり。」と記されており、本堂に参拝し、親鸞聖人が生きられた南無阿弥陀仏、すなわちお念仏のお心を知らせていただく日が御正忌なのでしょう。皆様のご参拝をお待ちしております。

■日　程　十一月二十八日（金）　午後一時
■場　所　本　堂
■内　容　お勤め、ご法話
■講　師　山本　英丸 氏（旭川市 圓満寺 前住職）

公開講演会報告

九月一日 午後一時半　聴講者四十名程

この度、名古屋市恵林寺副住職、荒山淳氏をお迎えし「帰りなん、いざ　～私たちはどこへいこうというのか」で、ご法話をいただきました。童謡の「ふるさと」を参詣者と皆で歌い、それぞれに自身のふるさとを思い返す、帰れる場が私にはあった。また、真宗としてその場を大切にされた親鸞聖人のはたらきを、紙芝居を用いて教えていただいたことでありました。

別院子ども会

お泊まり会

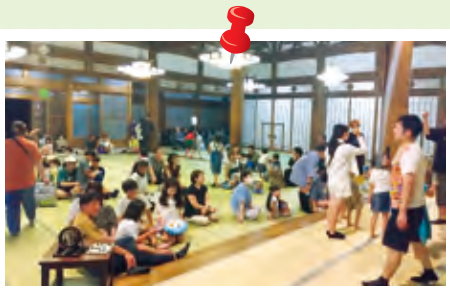
７月27～28日、夏の子ども会を開催し、60名の子ども達がお寺で１泊２日を過ごしました。1日目は輪番のお話とお参りから始まり、レクで体を動かした後、夕食のカレーを食べました。夕食後は、アイス作りや花火を楽しみました。２日目はお参り・朝食の後、前日に撮影した集合写真を入れる写真立てのデコレーションをしました。そして、夏の子ども会恒例の流しそうめんを行い、流れてくるそうめんやラーメンをお腹いっぱい食べました。

※子ども会のご案内をご希望の方は、旭川別院までご連絡をお願いいたします。

お盆の集い

別院子ども会では毎年「お盆の集い」を開催し、楽しいレクや豪華景品？が当たるビンゴ大会、本堂から眺める花火大会を行なっています。今年も大勢の皆様にご参加いただき、賑やかなお盆のひと時となりました。

お泊まり会


お盆の集い

救援金のお願い　宗派では、このたび災害の種類や発生の有無に関わらず、救援金を勧募しています。皆様からの温かいご支援をお願い申し上げます。▶▶▶

幼稚園型認定こども園 旭川別院附属 大谷さくら幼稚園

＊旭川別院附属大谷さくら幼稚園便り＊

今年の夏は、全国的に記録的な暑さが続きました。幼稚園では、涼しい時間にお外で過ごし、水分を補給しながら汗を沢山かいて、夏を楽しみました

興味がいっぱい！（見て 触って）

0歳児 ひよこ組

葉っぱみっけ！

手についた砂をじっと見つめています

1歳児 りす組

ガラスに手形をペタペタ

カラス除けのCDがキラキラ✨触ってみた〜い！届くかな？

2歳児 うさぎ組

モコモコの泡の感触

3歳児 こあら組

氷、つかめるかな？

雨上がりの大谷の杜

4歳児 ぱんだ組

畑で育てていたとうもろこしが、ある日茎が折れて、実が食べられていました。「お水あげたらまたなるかな？」「カラスかな？」と話し合っていたところ、トウモロコシを育てている方がその話を聞いて、「ぜひうちの畑にいらっしゃい！」とお誘いを受け行ってきました！みんなで収穫して、箱いっぱいの収穫。茹でたてあつあつをいただきました。うまくいかない事もある、と子ども達も先生も感じました。

5歳児 きりん組

街探検でピザ屋さんをみつけて取材交渉！オッケーをもらい、作り方やコツを教えてもらいました。

ピザ作りの世界チャンピオン

畑で採れた新鮮野菜がたっぷりのピザです！

食育

大谷の杜の畑では、野菜がすくすくと育ち、収穫していただいています。「おいしい♥」と自分達で育ててきた特別感を味わっています！

キャベツの収穫

「お味噌汁にしたい！」「給食室に作り方、聞いてこよう！」煮干しを調理さんにいただき、本格的な出汁の美味しい味噌汁が完成！

♪お楽しみランチ

わたしの一枚

八重咲きのチューリップ。今年の五月にお参りさせていただいたご門徒さんのご自宅に生けられていました。植えていないのに数年前から庭に咲くようになったとのことです。

（旭川市　R・M）

※皆様からのお写真を募集しています。お気に入りの一枚がございましたら、旭川別院までご連絡をお願いいたします。

仏前結婚式

村井家・安本家

令和七年六月二十八日
旭川別院本堂

敦仁さん・雅さん
ご結婚
おめでとうございます

※仏前結婚式の詳細については、旭川別院までお問い合わせください。

うどんげ

「一つな、二つはダメだぞ」

今年は、例年にない程の全国的な猛暑が旭川にもおとずれ、お盆参り中にも大粒の汗をこぼしながら勤めさせていただきました。

お盆は、世間的にも供物を持って、墓や納骨堂の先祖が納められている場におもむき、手を合わせ、各々が先祖を偲ぶ期間となっていますね。

当然、ご自宅のお内仏でもお参りに際してお供え物をされます。とあるご門徒さんのお盆参りで伺いますと、お内仏の前に切られた大きくみずみずしいデンスケすいかが供えられていました。お参り後、父さんが「ほれ、そのすいか食べてけ、一つな、二つはダメだぞ」と、冗談まじりに言われ、すいかを一ついただきました。亡き祖母が好きだったすいかだそうです。

今から二十年程前、福岡の田舎生まれの私と兄は、暑い中何もわからず足の痛い思いであったが、父（住職）にお盆参りに連れられていました。その際、必ず父がご門徒に、「お盆は多くのお供え物があがるでしょう、「盆」とは皿の上に分けると書く。今、私が血を分けた方を供物を分け合う中で、改めて確かめていく、そのご縁をご先祖にいただいとるんじゃなかろうか…」

冷たい麦茶、カラフルな金平糖をご門徒のおばあちゃんに貰って喜んだことを、暑さと晴天に大きな白雲の下、田んぼ道を走ると思い返すことであります。

福芳　応彰

葬儀は旭川別院で

葬儀への提案

歴史ある本来の姿での儀式

旭川別院を会場とした葬儀式が執り行えるよう準備を致しました。亡き故人とのお別れを告げるだけの告別式ではなく、故人との繋がりを大切にし、仏教本来の儀式に基づいたご葬儀です。どうぞご利用下さい。

－真宗大谷派 旭川別院－

大谷ホール
真宗本来の葬儀壇

通夜・葬儀使用料（葬儀壇・会場費込）

●大谷ホール……150,000円
（消費税はかかりません）

※詳細は別院迄

お知らせ　平素は、事務取り扱いは**午前９時〜午後４時迄**・納骨堂のお参りは**午前9時〜午後７時00分迄**　※場合により変更あり